

ティヌオスの学校に行けない子どもたちの為に
ILS（先住民族学校）を立ち上げたアニータ先生
より、学校の紹介文が届きました。
以下、その要約を掲載いたします。（関連記事 P.3）



アニータ先生と
子どもたち

ティヌオスはサウスコタバト州レイクセブ町バラングイ・タクネルにある村です。セブ湖、ラヒット湖、シロトン湖を一望できる高台に位置していて、ウボとチボリの混血が多く住む地域です。レイクセブ町中心部から 8 km 離れており、およそ 60%の住人が土地を奪われ、土地なしの状態です。男性も女性もほとんどの住民は、ニト（蔓）やネフ（竹）を使って籠などの民芸細工、また床材を編む技術をもっており、かつてはその原材料も山にたくさんありましたが、焼畑農法の乱用で、今では有用な森林資源をほとんど失いました。

ティヌオスには学校がなく、子どもたちはただ遊んだり両親や家の手伝いをし、大きい男の子は父親と狩りへ行ったり、森から薪を集めたりしていました。公立の学校は 5 km も離れたところにあるので、親たちは通える距離に学校を、と望んでいました。そこで、アニータ先生が、私立学校として教育省から正式な認定を受け 2007 年 4 月 15 日に就学前と初級（低学年）教育を行う ILS（Indigenous Learning School）を、設立しました。近隣 4 つの集落 124 世帯（人口 620 人）から生徒が集まっています。



給食プログラム

現在、学校はとても大きな問題に直面しています。低収入のため、昼食が用意できない家庭の子ども欠席数と遅刻数がとても多いことです。

DSWD（社会福祉開発省）も給食プログラムとして 40 日間、ILS の生徒へ最小限の食料支援をしてくれ、その後は保護者に、学校給食支援になるからと、家庭菜園で野菜や穀物を植えるようお願いしました。農業局もいろいろな野菜の種を保護者に支援してくれ、毎月スタッフが家庭菜園のモニタリングを行い、7 月の栄養月間でうまく菜園をした保護者を表彰しました。

ILS はティヌオスに隣接しているバトゥンガルとシエテの地区にも、公立校が遠く、通学が困難な子供たちのため学校を開校し、今年は、それぞれ、34 名と 35 名の生徒が登録をすませました。

この新たに開校したシエテの住民は、ほとんどがウボ民族です。ILS をシエテに設立したのは、破壊が進むレイクセブの森の中では、比較的熱帯の多様な生態系が残っている地域で、教育を通じて、子どもたちに森の大切さを教え、生活基盤であった森の修復に参加してほしいと思ったためです。森の民ウボ民族の将来を子どもたちに託したいと思っています。

ILS の入学手続きは、学校農園にアバカの苗木 10 本を寄付し、植えることです。ティヌオスではもう 300 本になりました。わずかな授業料収入が頼りの教師給与支払いは遅れがちで、先生方も将来のアバカの収入に期待して、父母や子どもたちと学校農園の世話を汗を流しています。

（文責：井上）

スタディツアーを 11 月下旬に予定しています

これまでスタッフの事業地域モニターに同行いただく形で、市民、会員をミンダナオの事業地域にご案内してきましたが、今年は、より多くの皆さんに現地を訪ねていただこうと、2014 年度事業計画に含め、総会での承認をいただきました。以下、スタディツアー計画案（原案）をお知らせいたします。

* 期間：11 月下旬の 8 日間 * 経費：約 13 万円

* 主な訪問先及び活動：①レイクセブ町（COWHED 及びティナラク織手訪問、SCMSI 校の授業参観、セブ湖遊覧、ティヌオス等での苗木移植作業）② アラベル町及びマラパタン町（モロの村ブラコン及びトゥヤンのヘルス組合訪問）③ 希望者は、② の代替コースとして、マラパタン町（ナブル・カマガヤ小学校訪問）

なお、事業地域の一部は外務省海外安全情報の「渡航の延期勧告」「渡航の是非検討」対象になっています。

自己責任でのご参加をお願いしています。

〈事務局：担当・藤川〉